

子育て世代・働くひとの視点で北本を変える！
安心をすべての人に届けたい

きたもと

well-being 通信



北本市議会議員
 さくらい すぐる
桜井 卓



公式ホームページ
<http://sakuraisuguru.jp/>



第 4 号

新市長誕生で市の重要課題の行く末は？ 期待と不安が入り交じる船出

今回のポイント

- ◎三宮新市長は久保区画、デーノタメ遺跡、西仲通線、新駅の方向性を見い出せるか
- ◎行田市長交代で新広域ごみ処理施設建設も見直しへ
- ◎すぐに取り組む「10の公約」具体化はこれから。前市長からの事業継続にも注目。

平成31年4月21日の北本市議会議員選挙で初当選させていただきました、桜井卓です。今回の市議会議員選挙の投票率は前回の55.05%を大きく下回る48.64%でした。市民のみなさまに市政について少しでも関心を持っていただけるよう、分かりやすい情報発信に努めてまいります。よろしくお願いいたします。

同日の市長選では三宮幸雄さんが3度目の挑戦にして初当選を果たしましたが、その行く手には数々の難題が待ち受けています。今回は三宮新市長がこれから取り組まなければいけない主な課題について解説します。

久保特定土地区画整理事業の見直しと デーノタメ遺跡の国史跡化

三宮新市長は、今回の市長選で「久保特定土地区画整理事業の見直し」と「デーノタメ遺跡の国史跡化」を公約に掲げていました。

久保特定土地区画整理事業は、事業開始から20年以上が経過し、事業費総額110億円のうち約4割を使っておきながら、移転が必要な家屋の移転率は21.5%、保留地の処分率は4.7%（数値はいずれも平成29年度末現在）。進捗がかなり遅れている状況です。

土地区画整理事業地内を南北に貫く都市計画道路・西仲通線は、上尾市・桶川市の区間はほぼ完成し、鴻巣市も一部開通しています。北本市内だけがほぼ手付かずの状態です。

下の地図のとおり、土地区画整理事業地と西仲通線の重なる地点にデーノタメ遺跡が存在しています。デーノタメ遺跡を国史跡化することは久保特定土地区画整理事業や都市計画道路などの都市計画を変更するということです。



新駅に続き、土地区画整理事業まで頓挫することになれば、南部地域が衰退し、人口減少が加速する可能性が高くなります。長年事業完成を待ち続けている地権者も多いと思います。

見直しに当たっては、まずは地権者を含めた市民の意向をしっかりと聴き取り、議論をする必要があると思います。さらに全国の都市計画の見直し事例を参考に、専門家にも意見も聞きながら、多くの市民が納得する形でできるだけ早期に終結させなければなりません。

また、デーノタメ遺跡を仮に公園として整備するのであれば、遺跡は北本市民だけでなく日本国民の財産ですから、その整備費用はクラウドファンディングなどで全国から寄附を募るなど、市の財政負担を軽減する工夫も必要です。

さらに三宮新市長は南部新駅についても「あらゆる調査を実施」としています。区画整理・デーノタメ遺跡・西仲通線・南部新駅の全てについて方向性を決めることができれば、人口減少で暗雲が垂れ込めた北本市の将来に少しだけ明るい兆しが見えてくるのではないかと思います。見直し作業は困難を極めるでしょう。

行田市でも新市長誕生 広域ごみ処理施設建設計画は見直しへ

北本市の燃えるごみの焼却は、鴻巣市・吉見町と共同で吉見町にある埼玉中部環境センターで行っています。この施設が老朽化していることなどから、鴻巣市・行田市・北本市の3市で新たなごみ処理施設を2020年度から建設し、2023年度から稼働させる計画が策定されています。

新たなごみ処理施設は鴻巣市の郷地・安養寺地区（県央みずほ斎場の手前）に建設されることになっています。



出典：鴻巣行田北本環境資源組合施設整備基本計画

ところが今年4月の行田市長選挙で、この計画を見直して新しいごみ処理施設を行田市小針（行田市の既存のごみ処理施設がある場所）に建設することを公約にした石井直彦さんが当選しました。

現在の建設予定地は鴻巣市が選定したのですが、昨年5月には選定過程が不透明だとして鴻巣行田北本環境資源組合の議会において検証のための百条委員会の設置が提案されました。結果は賛成少数で否決されましたが、今回の行田市長選の結果を受け、建設場所が再検討されることは確実です。これにより、計画のやり直しや施設整備の遅れも懸念されるところです。

なお、行田市小針にはすでにごみ処理施設を建設できる用地が確保されているとのこと。鴻巣市の建設予定地は地盤が緩く、施設整備費が当初の計画額を大幅に上回る懸念がありました

ので、この見直しにより総事業費を低く抑えられる可能性もありそうです。

施設整備費だけで250億円を超える大事業です。北本市の財政負担の増大や市民生活に欠かせないごみ処理が滞る事態は、避けなければなりません。行田市や鴻巣市と協力して、早急かつ慎重に見直しを進める必要があります。

「10のお約束」は具体的内容を明らかに 前市長が進めていた事業の継続にも注目

今回の市長選に当たって三宮新市長は次の「10のお約束」を掲げていました。

すぐに取り組みます 10のお約束

<p>1 消滅可能性都市一掃のための女性・子ども・若者1億円プロジェクト</p> <p>2 南部新駅・圏央道・上尾道路沿線開発のあらゆる調査を実施</p> <p>3 子どもの命・学びの権利を守る「教育改革市民会議」（仮称）の設置</p> <p>4 「子どもの本のまちづくり」の推進</p> <p>5 高齢者（特に一人暮らしの方・障がいのある方）の元気な居場所づくり（全市50箇所）</p> <p>6 デマンドバスの利用エリアの拡大（隣接市町の医療機関）</p> <p>7 駅東口広場の利便性向上のため歩道部分の屋根かけ</p>	<p>8 市街地の中の緑の保全（宮内緑地等）</p> <p>9 芸術文化と雑木林・里山をコラボした史跡回遊路の整備</p> <p>10 北本の暮らしの原点、「デーノタメ遺跡」国史跡化</p>
--	--

詳しくはこちらをご覧ください

出典：選挙公報

「女性・子ども・若者1億円プロジェクト」や「教育改革市民会議」（仮称）の内容の詳細は今のところ不明です。まずはこれらの具体的な内容をきちんと市民に提示して、広く意見を聴くべきでしょう。多額の財源が必要となりそうな事業もあり、財源の捻出方法や資金計画についても明示していただきたいところです。

この他にも、今年の第一回定例会で否決された「いじめ防止対策推進条例」や前市長が積極的に進めていた桜国屋リニューアルや森林セラピーをどうするのかも注目されます。

今回の市長交代劇は新市長への期待の表れだと思いますが、課題は山積しています。市民の期待に答えられなければ、期待はすぐに失望へと変わるでしょう。それは私たち議員も同じです。北本市が抱える数多くの難題に、危機感を持って迅速に取り組まなければなりません。

市民のみなさまにもぜひ関心を持って注視していただきたいと思います。

LINE@アカウント
@sakuraisuguru

発信頻度：週1回程度
※登録しただけでは、私の方では誰が登録したかわかりませんので、安心して登録いただけます。

桜井すぐる 公式ホームページ
<http://sakuraisuguru.jp/>

桜井すぐる

発行者 桜井 卓（さくらい すぐる）
住所 北本市高尾 1-166-6 Tel.090-9389-3572
E-Mail sakuraisuguru.kitamoto@gmail.com

■プロフィール
1973年生まれ（46歳）。早稲田大学教育学部卒業。
1995年から2019年まで埼玉県職員として財政課、税務課など24年間勤務。家族（妻と娘3人）。
2019年5月から北本市議会議員（1期目）。